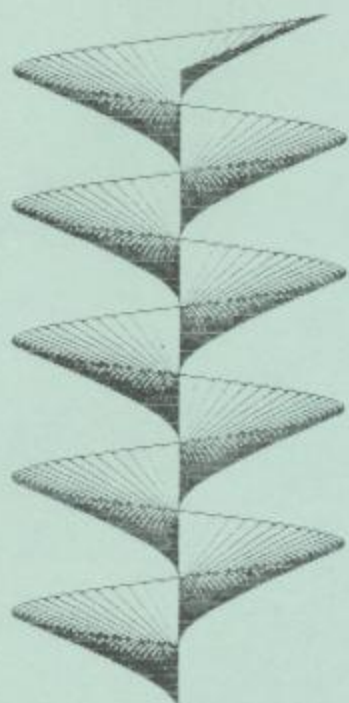


第 14 号



パピルス & エレクトロニクス

学校法人大阪工大摂南大学図書館

〒535 大阪市旭区大宮5-16-1

06-952-3131

館長就任に当たっての所感

図書館長 川島 普 (教授・工学博士)

この4月に学校法人の図書館長に就任して以来、いままで33年間勤務してきた教員の世界とは異なる組織の長としてとまどいを感じることはばかりでした。以下、若干の感想を述べさせていただきます。

工大の図書館の歴史をふりかえって、特に杉浦館長の時代の昭和55年9月にオープンされた中央図書館において、今日に至るまでに館員みずからの手で開発された総合的なオンラインシステムが、現在ほぼ全業務について完成、稼動してきたこと、さらに、61年10月からV T S S方式による学術情報センターとの接続も実現し、教育、業務の両モードでの運用が行われている状況への、館員の方々のたえまない努力に深く敬意を表します。

ここ半年をふりかえって私学図書館協会関係の会合が色々ありました。西地区理事校として本学で阪神地区の会合(5月29日)、西地区部会の役員会、部会が京都学園大学(6月4、5日)であり、62年度第1回東西合同の役員会、第48回総大会・研究会(7月29日～8月1日)が鶴見大学で行われ出席しました。この東西合同総大会には出席校163校(313名)、研究会では参加校166校(375名)

の盛会でありました。

総大会では、多くの会務報告と議案が審議されました。今年は「図書館と情報ネットワーク」のテーマのもとに講演会やパネルディス



カッションが行われ大変参考となりました。31日午後のパネルディスカッションでは、中研・杉町氏を加えた5名のパネラーの方々がこのテーマのもとに活潑に討議され、質問も乱れとんで興味深いものがありました。またこの夜はほとんど全員が横浜での懇親会に出席し、色々語り合いました。8月1日はこうした会合につきものの見学研修に参加し、横浜の港が見える丘の「大仏次郎記念館」と「県立神奈川近代文学館」を訪ね参考となりました。こうした多くの会合を通じて幅広い専門分野の人々と広く接触して今後の図書館の在り方を色々考えさせられました。

幅広く、奥深い業務内容をもつ図書館をみなおし、利用者の方々に実りのある一層のサービスをしたく思います。

チャールベリーの思い出 - イギリスへの旅 -

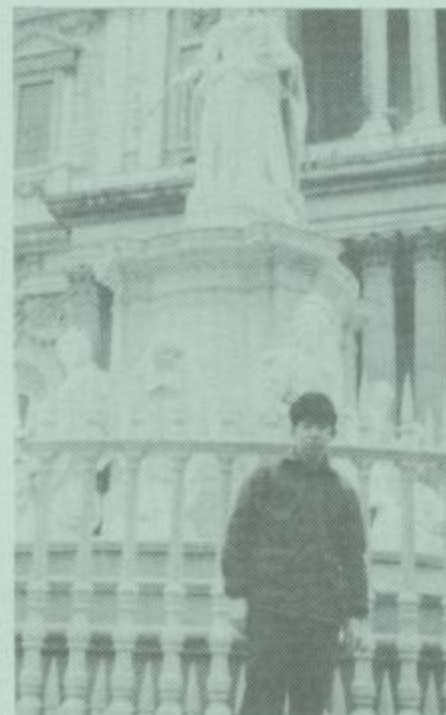
I部 応用化学科 3年 富田 正和

「旅行、特に海外旅行は社会人になれば、まず不可能である」と、高校のクラブのOBが忠告してくれた。以前から（というのは小学生ぐらいの時からで、よくヨーロッパからの日本語放送を短波で聞いたりして）ヨーロッパに憧れていた。そんなこともあって、思いきって、この春15日間イギリスに行った。なるべく多くの外国人と話してみたかったので、バック旅行ではなくて一人でユースホテル（以下ユースと略）を転々と渡り歩く貧乏旅行をすることにした。旅行の経路は次のようなものである。

大阪 → マニラ → バンコク →
デリー → ロンドン → オックスフォード → チャールベリー → カーディフ →
ボース → チェスター → エジンバラ →
グラスゴー → チェスター → ロンドン →
デリー → バンコク → 台北 → 大阪

飛行機はまず最初の給油地マニラへ寄港した。空港のトイレで手を洗おうとしたら、清掃員に取り囲まれてしまった。「ヤバイ！」と思っていると、水道の蛇口をひねってくれた。あっけにとられていると今度は石鹼を手渡してくれた。何しろ飛行機に乗るのは初めてなので、空港はこんなにサービスが良いものかと内心感心していると、チップとして千円を要求されてしまった。せっせとアルバイトで稼いだ貯金をはたいての貧乏旅行、チップの習慣は尊重するとしても千円は高い。そこへ偶然、警察官がやってきたので何も払わずに済んだ。しかし、このことで気が動転していたせいかDeparture Time（飛行機の出発時間）を搭乗時間と間違え、気付いた時には既に出発時間が過ぎていた。ところがなんと飛行機が私一人を待っていてくれたのである。おかげで私は、無事に搭乗すべき飛行機に乗

ることができた。（感謝！）ところが、またまた、飛行機に乗るやいなや乗務員に取り囲まれてしまった。私は謝らなければならないと思ったが、そんな余裕はなくて逃げるようにして自分の席へ座った。結局、飛行機は10分遅れて出発したのだった。話しは一気にイギリスまで跳ぶが、イギリスに着くと、まずロンドンに行った。ロンドンは、寒いというより冷たいという感じで、空はどんより曇っていた。ヒースロー空港に着いた時は霧が濃かった。しかし、市内はそれほどでもなく、空港から1時間ばかり地下鉄に揺られていると、イギリスに来たんだという実感が湧いてきた。セントポール寺院では、賛美歌が歌われていてムード満点だった。外国に来たんだなあという実感と、ここでダイアナ妃の結婚式が行われたことを想って、ひどく感激してしまった。ハイド



（セントポール寺院の前で）

パークは、一面に芝生で覆われて美しかった。しかし、ビッグベンの時報の前に鳴る曲は、私の小学校のチャイムとよく似ているし、バッキンガム宮殿には、見たくもない日本語の案内板があり、少々がっかりした。日本人のあまりの多さにも雰囲気も台無しにさせるものがあつた。せっ



(テムズ川の橋上で
ビッグベンを望む)

かく外国まで来たというのに、期待したほどの感激を味わうことができず焦りを感じ始めた。観光名所に行っても面白くないのである。そこで、列車に乗ってオックスフォードへ行くことにした。街全体が大学という感じで、あまりの広さに驚いた。しかし、ここでも日本人の多さにあき

れてしまい、すぐにそこを立ち去り、ユース

に泊まるためだけの理由でチャールベリーという小さな街へ行った。

ユースを探したが地図を持っていないのでなかなか見つからない。道を尋ねても英語が全然わからない。3月という季節、雪が降っているし、寒くてたまら

ない。どうしようかと思ひながら途方にくれていると、通りかかった車、それもアベックの車にユースまで乗せてもらい助かった。

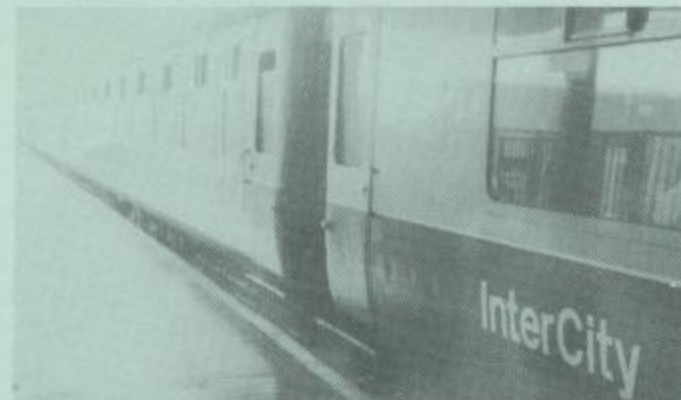
ユースには、日本人はいなくてイギリス人が7人いた。20代の女性・5人グループとアベックである。ユースに滞在中は自己紹介に始まり、自分自身のことや日本のことを話した。彼等からも同様のことを聞き、ジェスチャーを交えての会話だった。手持ちの現金が残り少なくなった今夜の私の食事は、食パンとジャムだけである。情けない思いで一人、ユースの食堂の片隅で食べていると同宿の女性の一人が“*It's for you.*”と言って紅茶や果物など、たくさんの御馳走をしてくれた。私はそのたびに“*Thank you very much.*”



(チャールベリーのユースホステルで記念撮影)

を繰り返すだけだった。次の日、5人グループの彼女らに車で駅まで送ってもらった。別れ際に、握手のポーズをするので一瞬驚きながらも、しっかり握手をして別れた。さらに、そのグループの一人とは、途中まで一緒に列車に乗った。私は、彼女に“*It's for you.*”と言って富士山の絵葉書を手渡した。彼女は、その小さなプレゼントをととても喜んでくれた。列車はしばらくして目的の駅に着いた。私は“*Good by!*”と言って、カッコ良く列車から降りるつもりでいた。この列車のドアは手動である。押せば簡単に開くと思っていた。しかし、ドアはビクともしない。体重をドアに乗せて体当りのように押ししても開かないのである。実は、この列車のドアは外からは普通に開けることができるが、中から開けるには、まず、ドアのガラス戸を手で引き下ろし、

のあとで手を外に出し、取っ手をつかんで回さなければならない。そんな事とは知らなかったなので降り積もった雪の上に、窓から飛び降りようと思ったが、結局、彼女に開けてもらい、やっと駅のホームに降り立ったのだった。



(扉の内側には取っ手が)

チャールベリーは、観光地としては見るところが何もなくて、それらしい客の姿も見られないような小さな街であった。しかし、私にとっては人々の素朴さに触れることができ、大満足の街だった。旅に少し余裕ができた私は、更にカーディフ、チェスター、エジンバラを周って帰国の途についた。

(1987. 3/4~18 帰国後に記す)

図書館活用の手引き No.13
～希望図書購入制度の活用～

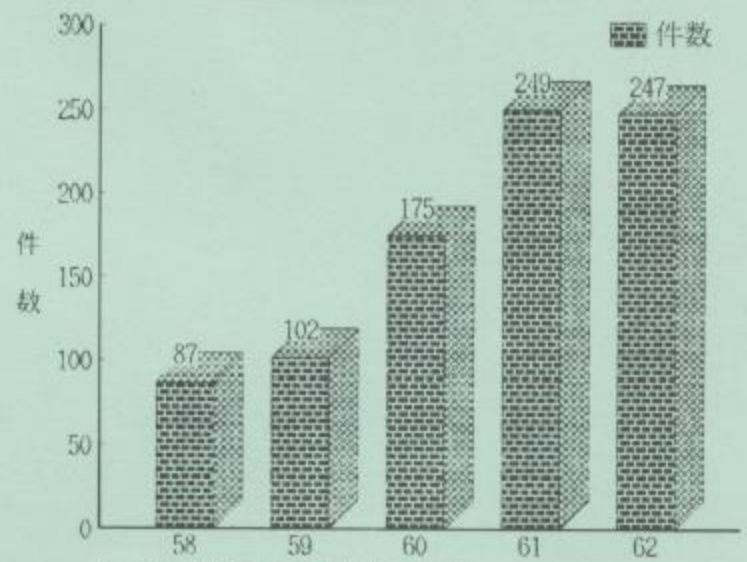
「希望図書購入制度」少々聞きなれない言葉のようですが、簡単に説明しますと、図書館に所蔵していない図書資料を利用者からの希望により図書館で購入する制度のことです。

手続きの方法は申し込み用紙に、書名・著者名・出版社名・金額等を記入の上メインカウンターまで提出して下さい。申し込み用紙は、第2図書室内の記帳台にあります。申し込みから約2～3週間程度で利用できますが、図書資料によっては納品時期が前後する場合がありますので、了承しておいて下さい。また、申し込みから利用までの経過は、図書館メインカウンター前の掲示板によりお知らせします。

なお、申し込まれたものは、できる限り購入するようにしていますが、次にあげるものは購入できません。

- 娯楽的要素の強いもの（マンガ本等）
- ゲームソフトを含む、コンピュータソフト
- 逐次刊行物等

過去4年間の希望図書受付件数



(注) 62年度は8月31日現在

以上のとおり昭和58年から現在までで約3倍に増えています。更に今年度は、昨年度の件数を上回ろうとしています。

《おしらせ》

中央図書館では、工科系図書を中心としながらも、幅広く図書を購入し、諸君の要望に応えたいと考えています。まだ、この制度について知らない人、あるいは一度も利用したことのない人は、これを機会に活用してみたいかがでしょうか。

諸君の申し込みを待っています。

編集後記

○今年の4月、新館長に川島普（かわしま・ひろし）先生を迎え、早半年が経ちました。新館長の下、図書館の一層の充実に向け、頑張らなければと、館員一同仕事に励んでいます。
○今回は工大・応用化学科の富田君に寄稿してもらいました。彼とのきっかけは、図書館の視聴覚コーナーでイギリスのビデオテープを見ていたところに、話しかけたことが最初でした。聞けばイギリスへ行くための予備知識を仕入れに来たとか。中央図書館のビデオテープは、語学関係を中心に購入していますが、語学学習のみならず、その背景に撮影さ

れている外国の風景を見ることだってあるのだと、そのとき思いました。

○よく人生は旅にたとえられますが、いろいろな旅を通じて、心の広い豊かな人間になりたいものです。欧米に比較して、文化的基盤が貧弱な日本であればこそ、富田君は良い経験をしたと思います。

○何はともあれ、季節は秋。最近の四季は少々おかしいながらも、秋を満喫したいものです。旅・読書・スポーツなどなど……。

追記

シリーズ「淀川ぶらり散策」は、紙面の都合で休みました。